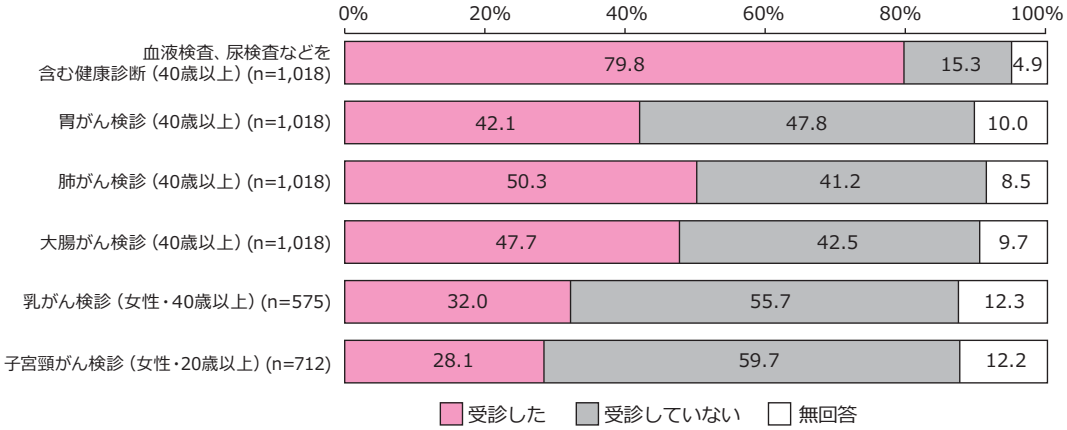
2 アンケート調査の結果の概要
（平成 30 年(2018 年)5 月実施分）

（1）生活習慣病[52]等の発症予防と重症化予防

ア 健診・検診受診状況

血液検査、尿検査などを含む健康診断の受診率は、79.8%となっています。
胃がん検診、肺がん検診、大腸がん検診の受診率はいずれも40%を超えています。
乳がん検診、子宮頸がん検診は、いずれも 30%程に留まっています。

図23 1年以内（乳がん検診のみ2年以内）の健診・検診受診状況



イ かかりつけ医等

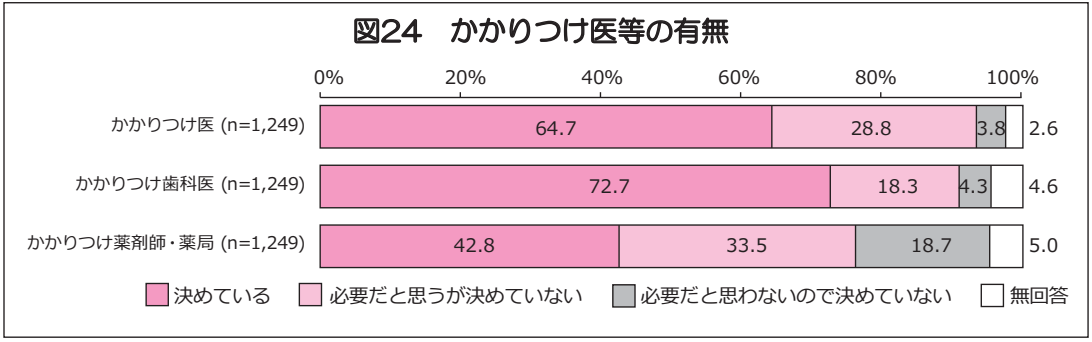
かかりつけ医を「決めている」と回答した人は 64.7%であり、前回調査から 0.1 ポイント増加しています。

かかりつけ歯科医を「決めている」と回答した人は 72.7%であり、前回調査から 29.4 ポイント増加しています。

かかりつけ薬剤師・薬局を「決めている」と回答した人は 42.8%であり、前回調査から 30.8 ポイント増加しています。一方、「必要だと思わないので決めていない」と回答した人の割合が 18.7%と、かかりつけ医、かかりつけ歯科医と比べて高くなっています。

かかりつけ医、歯科医、薬剤師・薬局のいずれも、年齢が上がるにつれて「決めている」と回答した人の割合が高くなる傾向にあります。いずれの年齢においても、女性の方が男性と比べて「決めている」と回答した人の割合が高くなっています。（95 頁、96 頁）

図24 かかりつけ医等の有無



[52] **生活習慣病** P1 参照。

ウ　健康に関する言葉の認知度（生活習慣病[53]予防等の健康づくり）

「健康寿命[54]」については、「知っている」と回答した人が 62.1%であり、前回調査から 23.0 ポイント増加しています。

「ＣＯＰＤ（慢性閉塞性肺疾患）[55]」については、「知っている」と回答した人が 26.1%であり、前回調査から 8.8 ポイント増加しています。

「メタボリックシンドローム[56]」については、「知っている」と回答した人が 82.4%であり、前回調査から 3.6 ポイント減少しています。

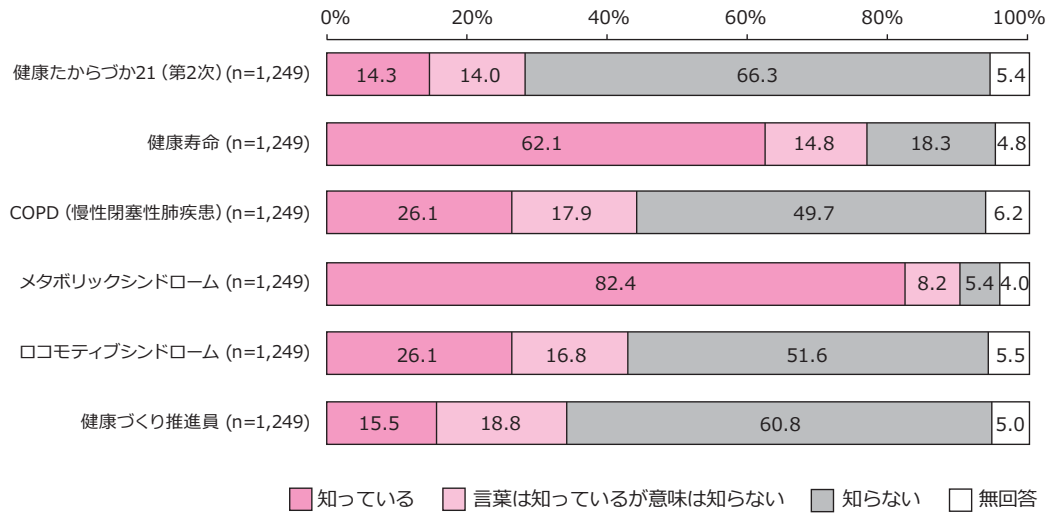
「ロコモティブシンドローム[57]」については、「知っている」と回答した人が 26.1%であり、前回調査から 15.6 ポイント増加しています。20 歳代での認知度が特に低くなっています。

「健康寿命」、「メタボリックシンドローム」以外の言葉については、「知らない」と回答した人がおおむね半数以上を占めています。

「健康たからづか 21（第２次）」「健康づくり推進員[58]」については、年齢が上がるにつれて「知っている」と回答した人の割合が高くなる傾向にあります。

「メタボリックシンドローム」については、年齢が上がるにつれて「知っている」と回答した人の割合が低くなる傾向にあります。（96頁、97頁）

図25　健康に関する言葉の認知度（生活習慣病予防等の健康づくり）



---

[53] **生活習慣病**　P1 参照。
[54] **健康寿命**　P1 参照。
[55] **COPD（慢性閉塞性肺疾患）**　P10 参照。
[56] **メタボリックシンドローム**　P22 参照。
[57] **ロコモティブシンドローム**　骨、関節、筋肉など運動器の機能が低下することによって、バランス能力、移動能力などが低下し、要介護になる危険の高い状態のこと。
[58] **健康づくり推進員**　P4 参照。

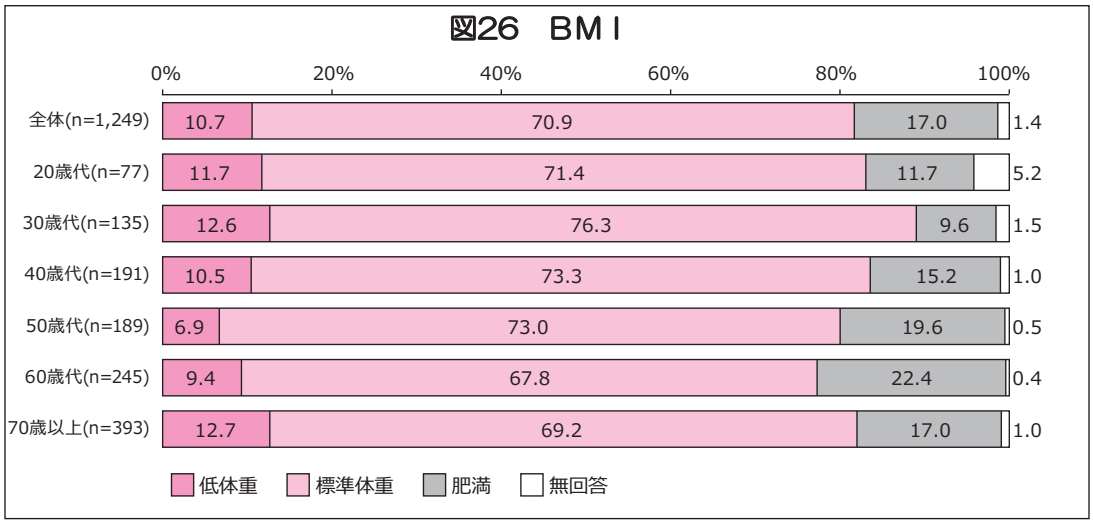
（2）栄養・食生活

ア　BMI[59]

「標準体重」と判定された人は 70.9%であり、前回調査から 2.7 ポイント減少しています。「低体重」と判定された人は 10.7%、「肥満」と判定された人は 17.0%です。

70歳以上では、「低体重」と判定された人が12.7%であり、他の年齢層よりも高くなっています。

図26　BMI



イ　食品購入時に食品表示を見ること

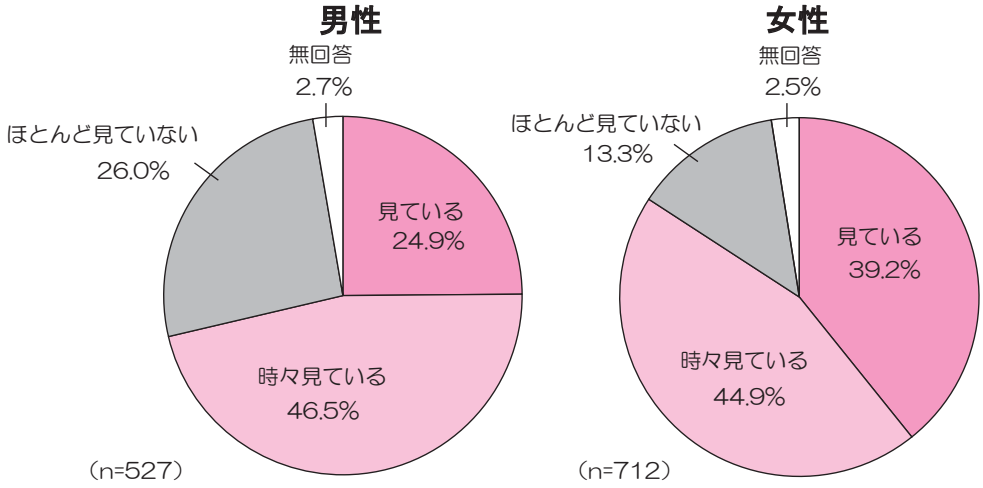
男性では、「見ている」と回答した人が 24.9%であり、前回調査から 3.0 ポイント減少しています。

女性では、「見ている」と回答した人が 39.2%であり、前回調査から 4.0 ポイント減少しています。

年齢が上がるにつれて、見ている人の割合が高くなる傾向にあります。

20 歳代では「ほとんど見ていない」と回答した人の割合が 36.4%と特に高くなっています。（98 頁）

図27　性別　食品購入時に食品表示を見ること



[59] **BMI**　体重(kg)÷身長(m) ÷身長(m)で算出される値。日本肥満学会の定めた基準では、18.5 未満が低体重(やせ)、18.5 以上 25 未満が標準体重(普通体重)、25 以上が肥満と分類される。

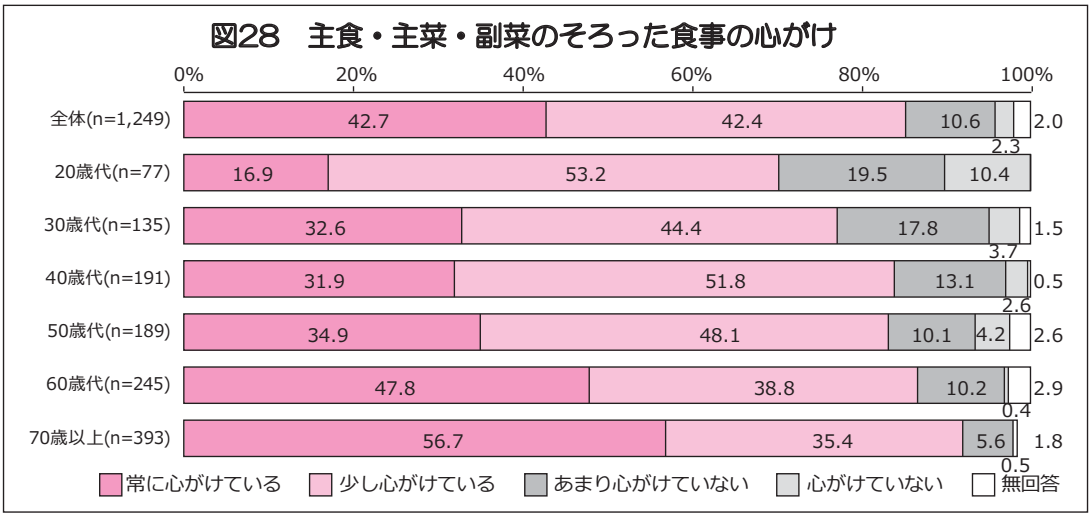
ウ　主食[60]・主菜[61]・副菜[62]のそろった食事の心がけ

「常に心がけている」と回答した人が 42.7%、「少し心がけている」と回答した人が 42.4%と、あわせて 85.1%の人が心がけを行っており、前回調査から 0.8 ポイント減少しています。

年齢が上がるにつれて、心がけている人の割合が高くなる傾向にあります。

20 歳代では「あまり心がけていない」「心がけていない」と回答した人があわせて 29.9%となっており、他の年齢層より特に高くなっています。

図28　主食・主菜・副菜のそろった食事の心がけ



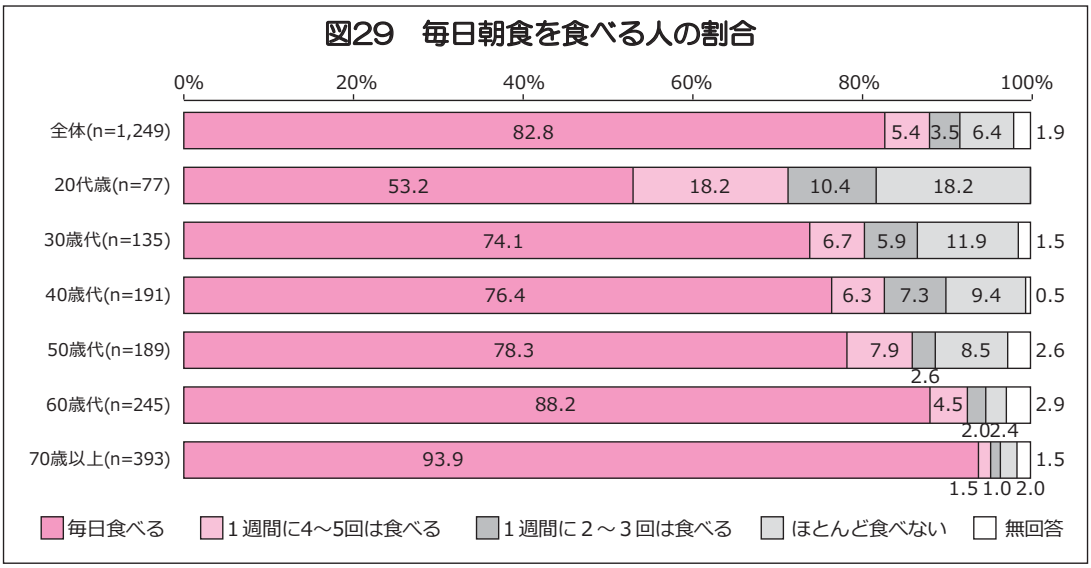
エ　毎日朝食を食べる人

「毎日食べる」と回答した人が 82.8%となっており、前回調査から 5.1 ポイント減少しています。

年齢が上がるにつれて、「毎日食べる」と回答した人の割合が高くなる傾向にあります。

20 歳代では「毎日食べる」と回答した人が 53.2%と、他の年齢層より特に低くなっています。

図29　毎日朝食を食べる人の割合



---

[60] **主食**　ごはん、パン、めん類などで、炭水化物を多く含みエネルギーのもとになる。
[61] **主菜**　魚や肉、卵、大豆製品などを使ったおかずの中心となる料理で、たんぱく質や脂質を多く含む。
[62] **副菜**　野菜などを使った料理で、ビタミンやミネラル、食物繊維などを多く含む。

オ　１日の野菜摂取量

１日に350g以上の野菜を摂れている人は12.9%であり、前回調査から2.9ポイント減少しています。

「小鉢２～３杯未満（140～210g未満）」と回答した人が27.3％と最も多く、次いで「1～2 杯未満（70～140g 未満）」「3～4 杯未満（210～280g 未満）」がいずれも約 22%となっています。

年齢が上がるにつれて、野菜を多く食べている人の割合が高くなる傾向にあります。

30 歳代では、「小鉢 0～1 杯未満（0～70g 未満）」と回答した人の割合は、5.9%と最も高くなっています。

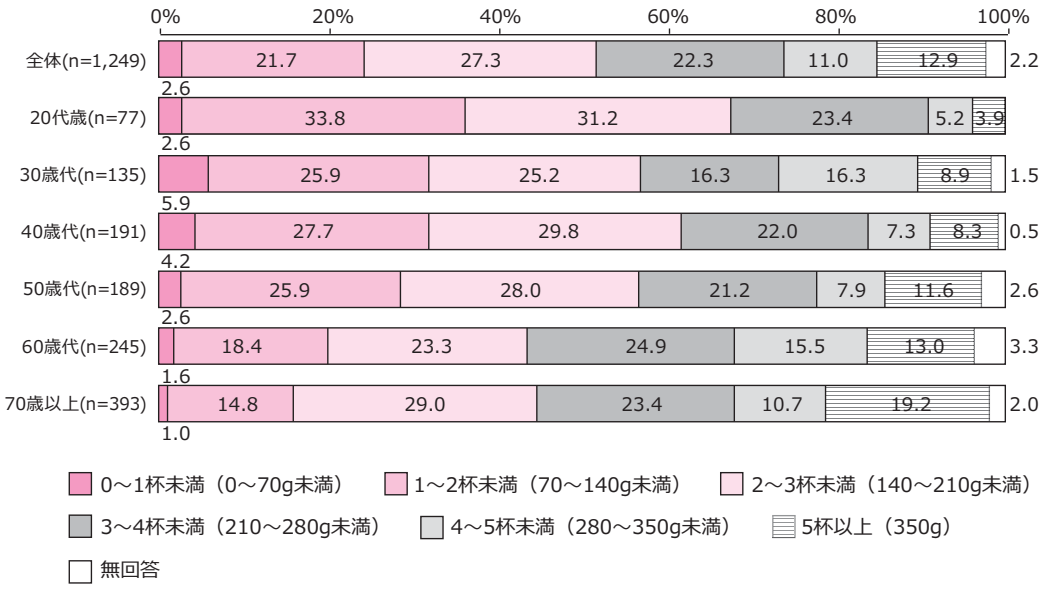
20 歳代では、1 日に 350g 以上の野菜を摂れている人が 3.9%と、他の年齢層より特に低くなっています。

いつ食べるかでは、朝食では「食べていない」と回答した人が 36.9%と最も多くなっています。

昼食では「小鉢に 1 杯程度」と回答した人が 35.8%と最も多く、次いで「小鉢に半分程度」が 34.8%となっています。

夕食では「小鉢に 1 杯程度」と回答した人が 41.2%と最も多く、次いで「小鉢に 2 杯程度」が 29.2%となっています。（98 頁、99 頁）

図30　１日の野菜摂取量

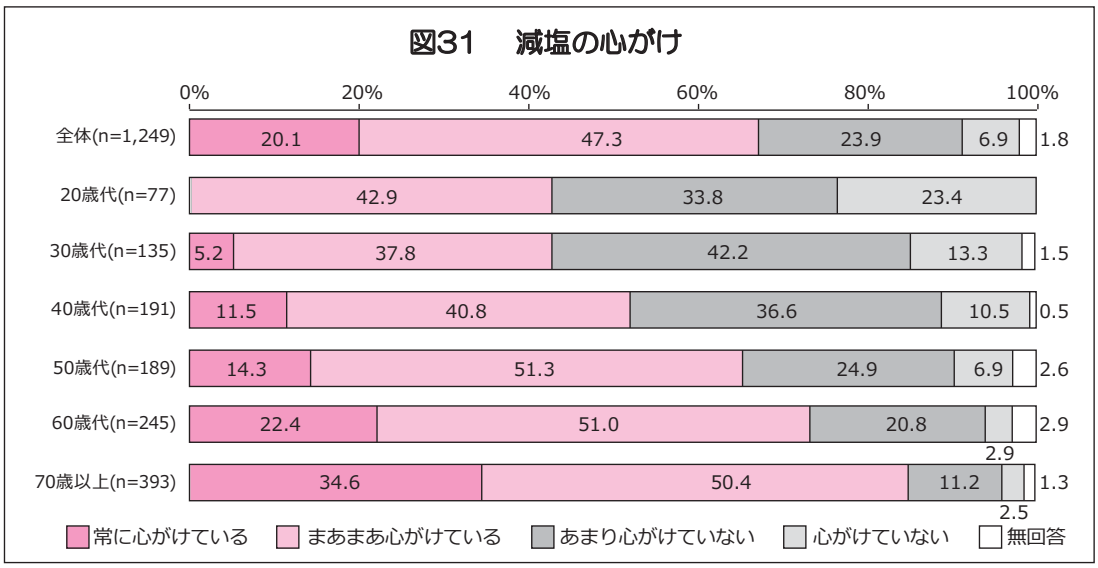


カ　減塩の心がけ

「常に心がけている」と回答した人が 20.1%、「まあまあ心がけている」と回答した人が 47.3%と、あわせて 67.4%の人が心がけを行っており、前回調査から 2.1 ポイント減少しています。

年齢が上がるにつれて、心がけている人の割合が高くなる傾向にあります。

20 歳代では、「常に心がけている」と回答した人はいませんでした。



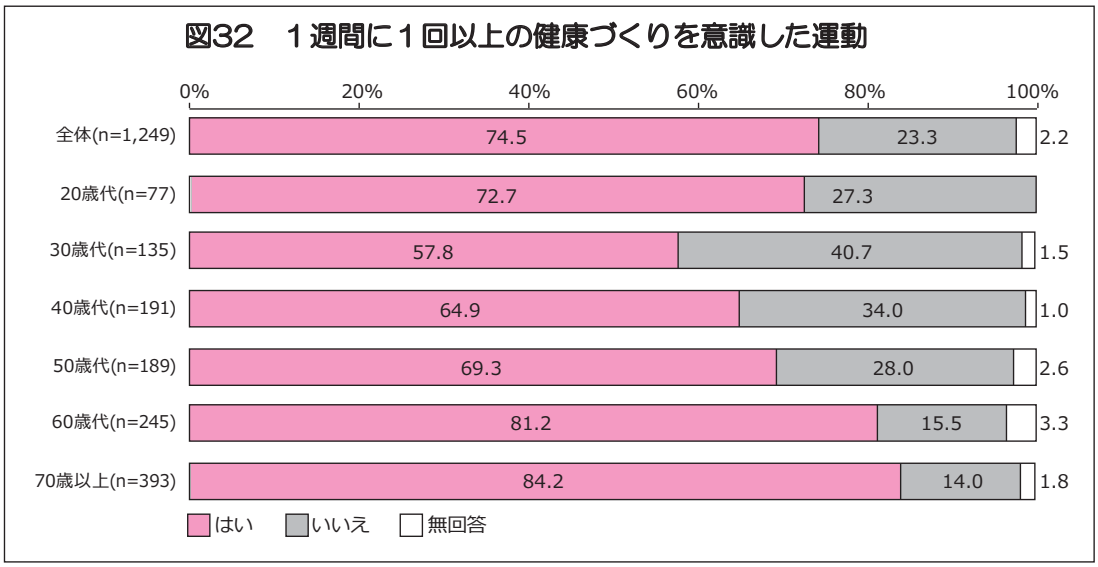
（3）　身体活動・運動

ア　1 週間に 1 回以上の健康づくりを意識した運動

「はい」と回答した人が 74.5%であり、前回調査から 0.4 ポイント増加しています。

30 歳代では、「はい」と回答した人が 57.8%と他の年齢層より低くなっています。

40 歳代以降は、年齢が上がるにつれて、「はい」と回答した人の割合が高くなる傾向にあります。



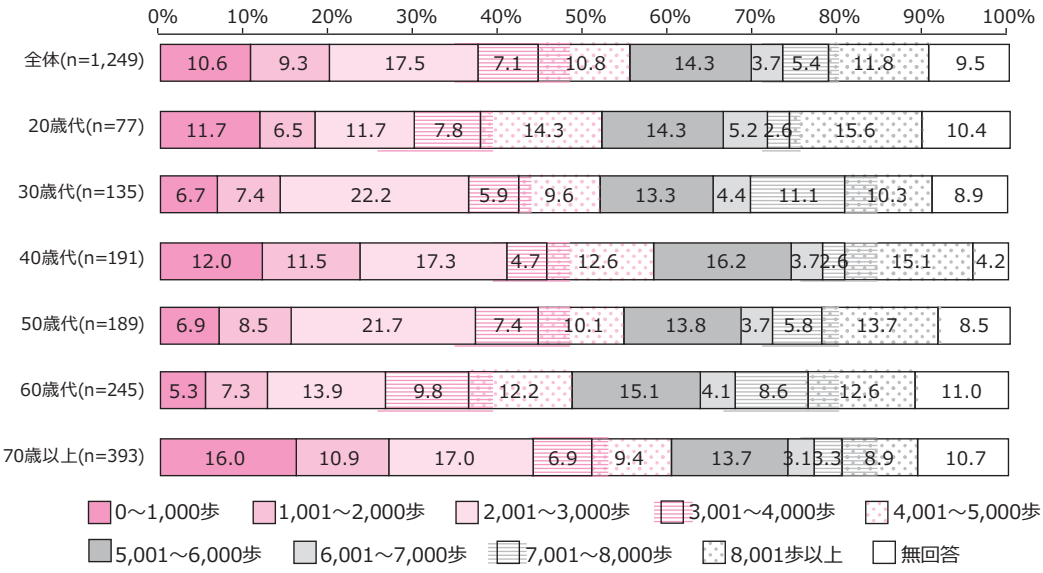
イ　1 日の平均歩数

1 日 5,001 歩以上歩く人は 35.2%となっており、前回調査から 4.6 ポイント増加しています。

20 歳代、40 歳代、70 歳以上では、「0～1,000 歩」と回答した人の割合が高くなっています。その一方で、20 歳代は 4,001 歩以上と回答した人の割合が 60 歳代と並んで高くなっています。

30 歳代では、「7,001～8,000 歩」と回答した人の割合が 11.1%と他の年齢層より高くなっています。

図33　１日の平均歩数



（４）喫煙・飲酒

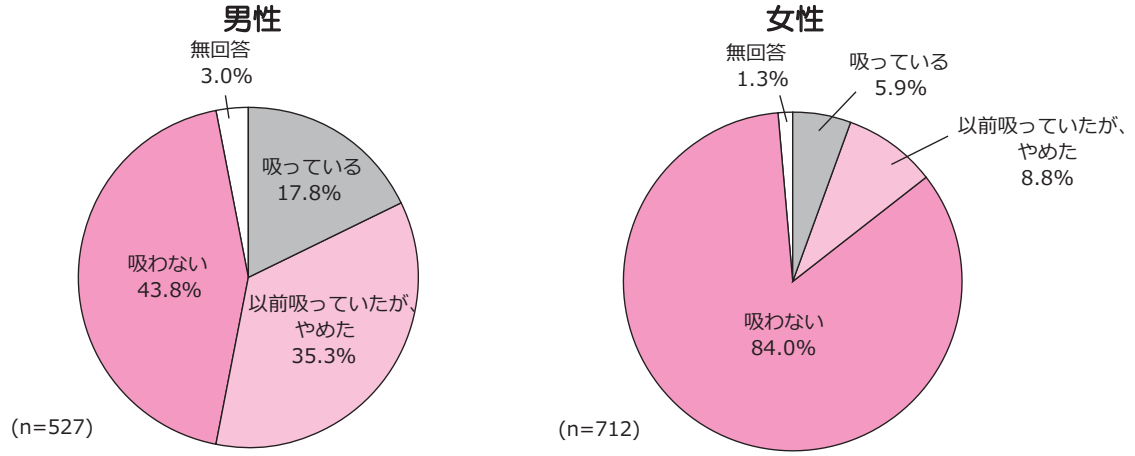
ア　喫煙状況

男性は、「吸っている」と回答した人が 17.8%となっており、前回調査から 1.6 ポイント減少しています。

女性は、「吸っている」と回答した人が 5.9%となっており、前回調査から 2.1 ポイント増加しています。

男女ともに、「吸わない」と回答した人が最も多く、それぞれ 43.8%、84.0%となっています。また、「以前吸っていたが、やめた」と回答した人をあわせると、男性では 79.1%、女性では 92.8%の人が非喫煙者となっています。

図34　喫煙状況



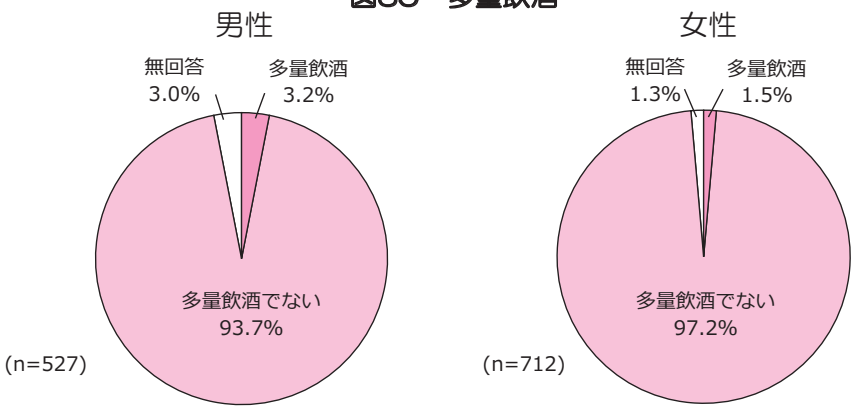
イ　多量飲酒

男性は、多量飲酒の人が 3.2%となっており、前回調査から 1.1 ポイント増加しています。

女性は、多量飲酒の人が 1.5%となっており、前回調査から 1.4 ポイント増加しています。

※前回調査における多量飲酒は、週に 6～7 日かつ１日に３合以上飲酒する人の割合。
平成 30 年度（2018 年度）の調査における多量飲酒は、週に 5～7 日かつ 3 合（清酒に換算）以上飲酒する人の割合。

図35　多量飲酒



（5）健康格差[63]

現在の健康状態について、「健康」と回答した人は、全体では 30.9%となっていましたが、相対的貧困世帯[64]では 20.7%と低くなっています。

適正体重を維持できている人は、全体では 71.2%となっていましたが、相対的貧困世帯では 61.4%と低くなっています。

1 年以内に血液検査等を受診している人は、全体では 81.7%となっていましたが、相対的貧困世帯では 68.0%と低くなっています。

図36　健康状態　相対的貧困世帯と全体の比較

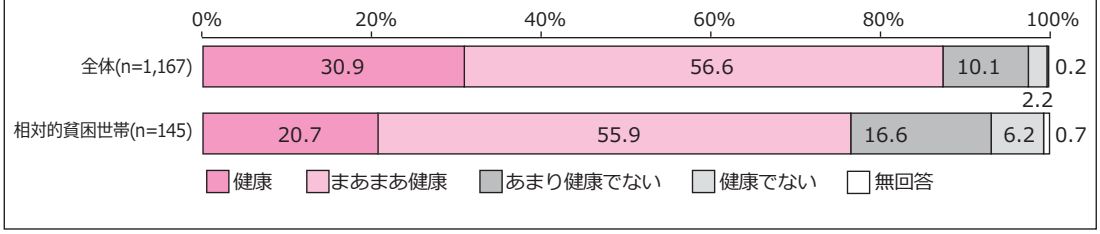
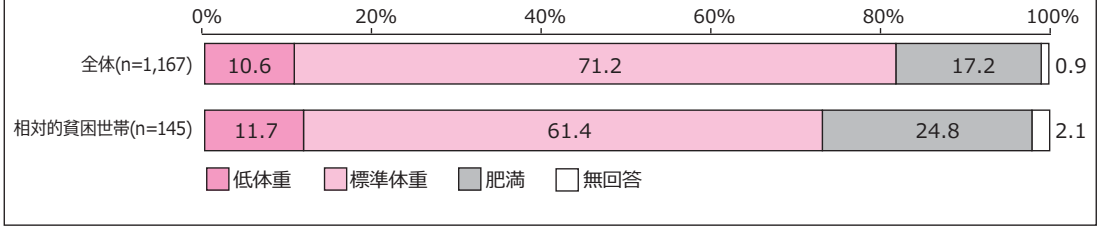


図 37　BMI[65]　相対的貧困世帯と全体の比較



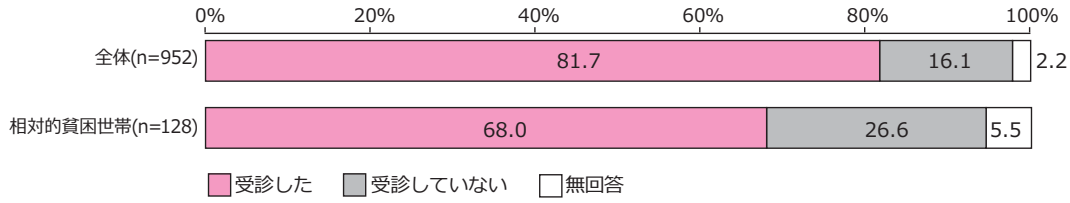
---

[63] **健康格差**　P1 参照。

[64] **相対的貧困世帯**　国は、国民生活基礎調査で示された相対的貧困水準以下の世帯を相対的貧困世帯としている。今回のアンケート調査では、世帯人員と世帯年収の組み合わせで、次の条件を満たす世帯を相対的貧困世帯とした。条件：2人で200万円未満、3人で250万円未満、4人で250万円未満、5人で300万円未満、6人で350万円未満、7人で350万円未満、8人で400万円未満。

[65] **BMI**　P28 参照。

図38　血液検査、尿検査等を含む健康診査（40歳以上）相対的貧困世帯[66]と全体の比較



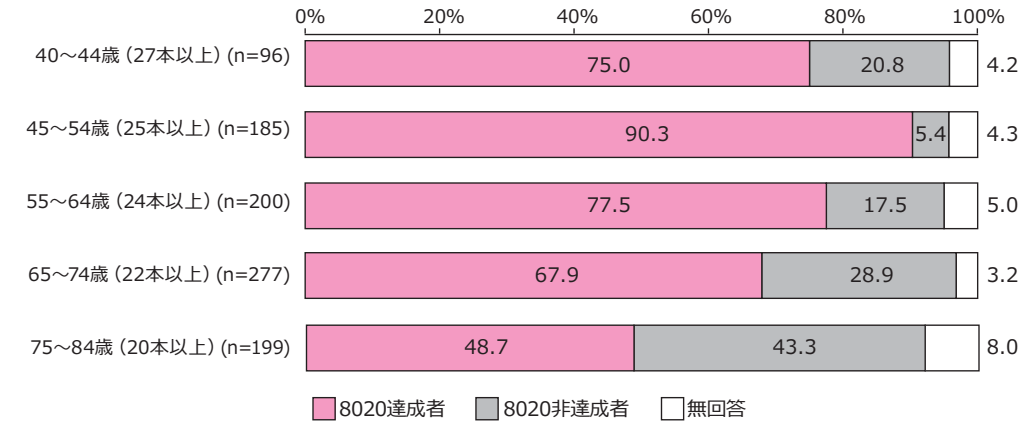
（6）歯の健康づくり

ア　8020（はちまるにーまる）[67]達成者

全ての年代で 8020 達成者の割合が増加しました。

特に、45～54 歳、55～64 歳、65～74 歳は目標値を達成しました。

図39　8020達成者

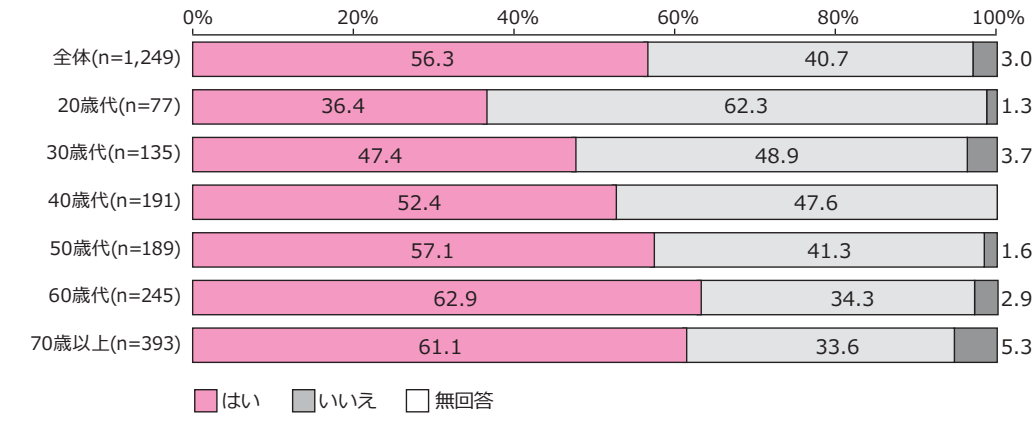


イ　定期的に歯石除去や歯面清掃を受けているか

「はい」と回答した人は 56.3%となっており、前回調査から 0.7 ポイント増加しています。

年齢が上がるにつれて、「はい」と回答した人の割合が高くなる傾向にあります。

図40　定期的に歯石除去や歯面清掃を受けているか



[66] **相対的貧困世帯**　P33 参照。

[67] **8020**　80 歳で自分の歯を 20 本保有することを目指した取り組み。

ウ　硬いものが食べにくい人

硬いものが食べにくい人の割合は、28.0%となっており、前回調査から 11.9 ポイント増加しています。

図41　硬いものが食べにくい人（70歳以上）

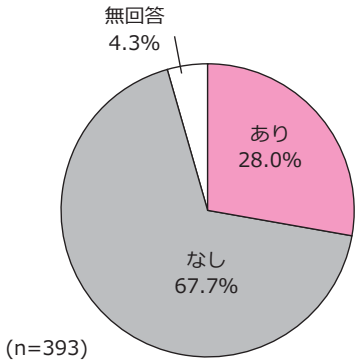
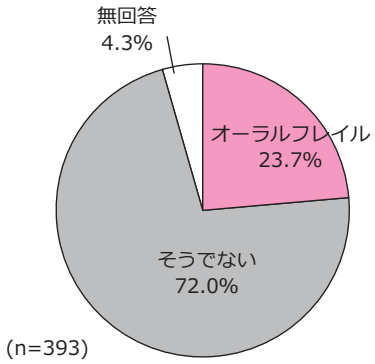


図42　オーラルフレイル[68]の人（70歳以上）

※硬いものが食べにくい、口が乾く、むせるのうち２つ以上該当する人



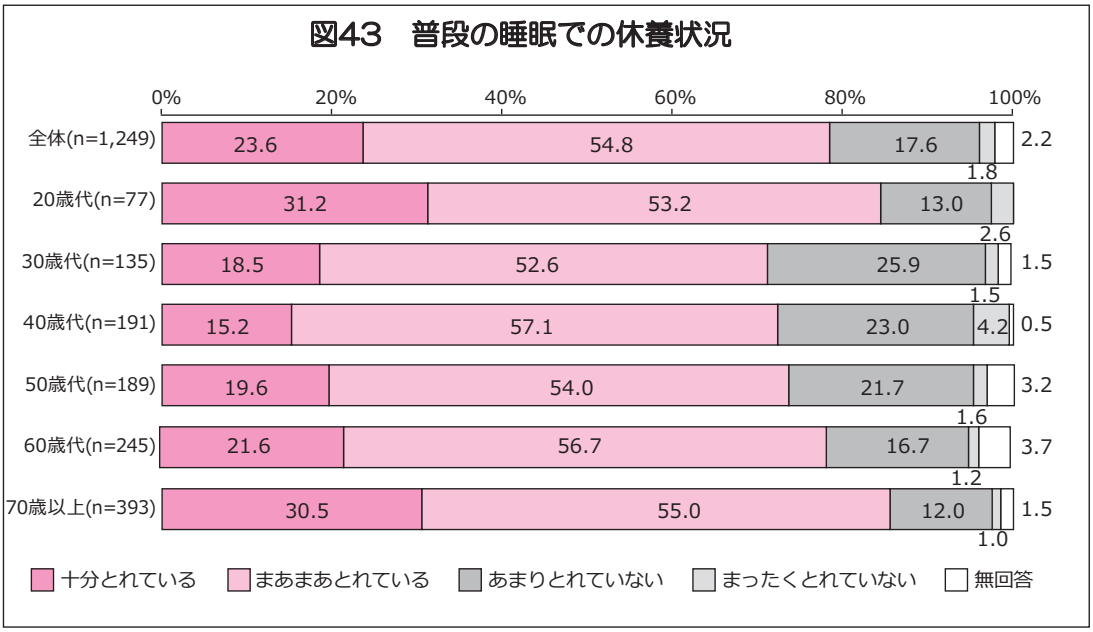
（7）こころの健康づくり

ア　普段の睡眠での休養状況

「あまりとれていない」と回答した人が17.6%となっており、前回調査から1.1 ポイント増加しています。

30 歳代から 50 歳代では、「十分とれている」と回答した人の割合が約 15～20%と低くなっています。その一方で、「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した人の割合が約 20～30%と高くなっています。

図43　普段の睡眠での休養状況



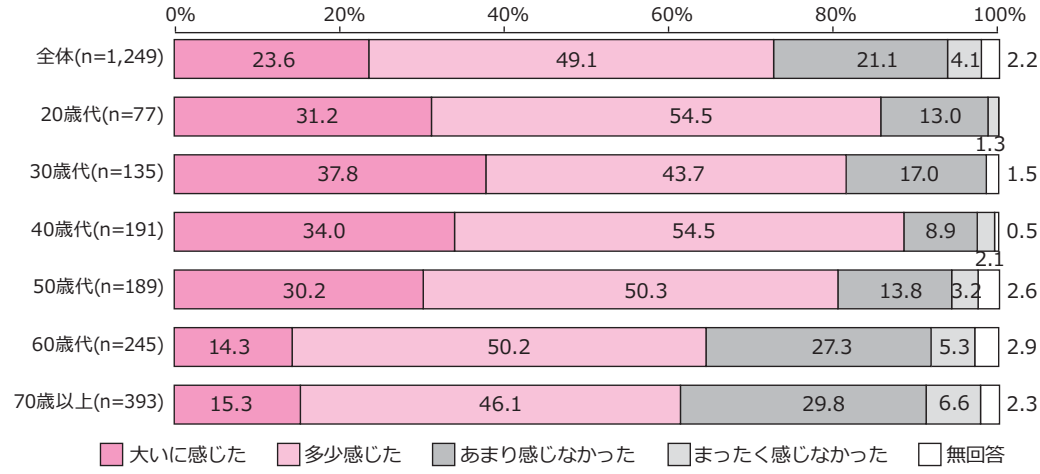
[68] **オーラルフレイル**　高齢者が虚弱や老衰などで介護が必要になる一歩手前の段階で現れる「話しにくい」「食べこぼし」「むせやすい」「かめない食品が増えた」などの「ささいな口の機能の衰え」のこと。

イ　最近１か月の間に感じたストレス

「大いに感じた」と回答した人が 23.6%、「多少感じた」と回答した人が 49.1％と、あわせて 72.7%の人がストレスを感じており、前回調査から 4.2 ポイント増加しています。

20 歳代から 50 歳代にかけて、「大いに感じた」と回答した人の割合がいずれも 30%以上と高くなっています。

図44　最近１か月の間に感じたストレス

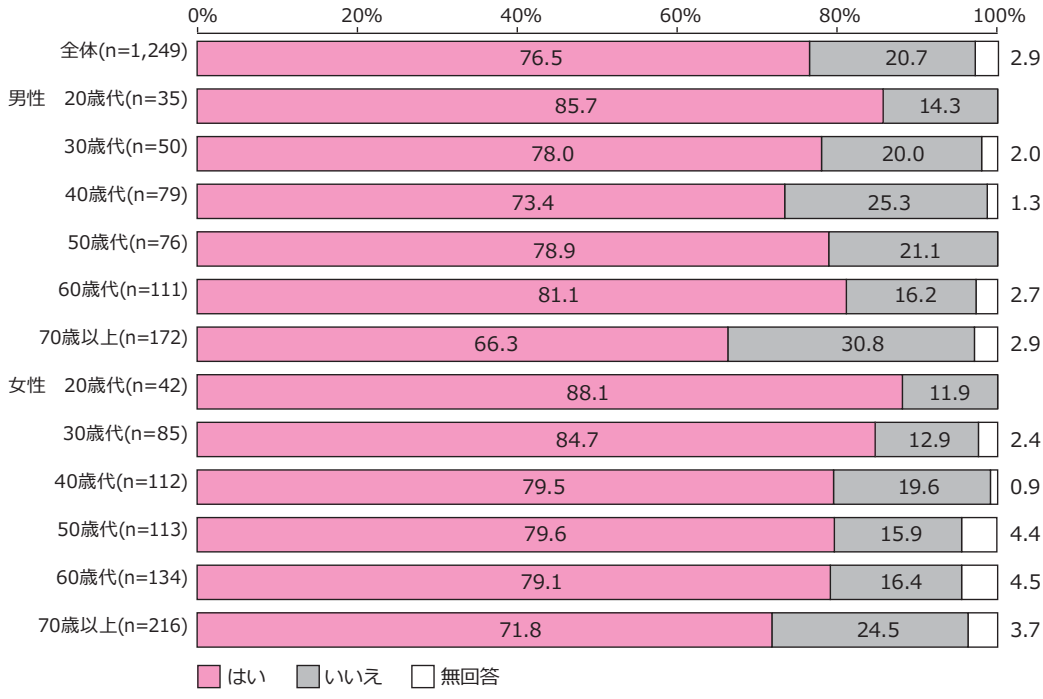


ウ　自分なりのストレス解消方法を持っているか

「はい」と回答した人が 76.5%となっており、前回調査から 2.7 ポイント減少しています。

女性では、年齢が上がるにつれて「いいえ」と回答した人の割合が高くなる傾向にあります。また、70 歳以上の男性では、「いいえ」と回答した人の割合が 30.8%と高くなっています。

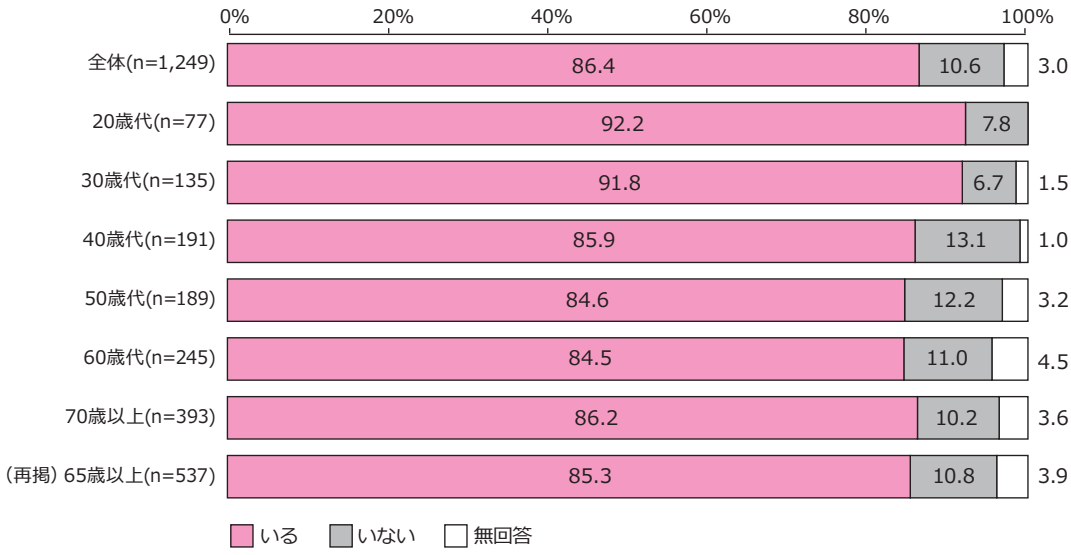
図45　自分なりのストレス解消方法を持っているか



エ　悩みやストレスがあったときの相談相手の有無

65 歳以上で「いない」と回答した人が 10.8%となっており、前回調査から 1.9 ポイント増加しています。

図46　悩みやストレスなどがあったときの相談相手の有無

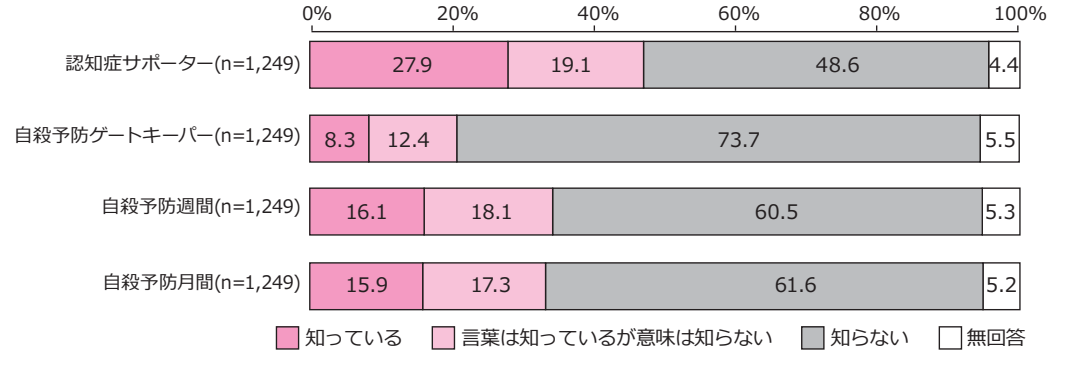


オ　健康に関する言葉の認知度（こころの健康づくり）

「認知症サポーター[69]」、「自殺予防ゲートキーパー[70]」、「自殺予防週間[71]」、「自殺予防月間[72]」のいずれの言葉も知らないと回答した人がおおむね半数以上をしめています。特に「自殺予防ゲートキーパー」については、「知らない」と回答した人が73.7%となっています。

「自殺予防週間」「自殺予防月間」については、年齢が上がるにつれて「知っている」と回答した人の割合が低くなる傾向にあります。（97 頁、98 頁）

図47　健康に関する言葉の認知度（こころの健康づくり）



---

[69] **認知症サポーター**　認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する人。

[70] **自殺予防ゲートキーパー**　自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のことで、言わば「命の門番」とも位置付けられる人。

[71] **自殺予防週間**　9月10日の世界自殺予防デーに因んで、毎年、9月10日からの一週間を自殺予防週間として設定し、国、地方公共団体が連携して、幅広い国民の参加による啓発活動を強力に推進している。

[72] **自殺予防月間**　自殺対策基本法において、3月を自殺対策強化月間と位置づけ、3月1日から31日までの間、相談業務等の自殺対策を集中的に展開している。

3 前計画の達成状況
平成 26 年度(2014 年度)～平成 30 年度(2018 年度)

前計画では分野別（生活習慣病[73]予防等の健康づくり、歯及び口腔の健康づくり、こころの健康づくり）・ライフステージ[74]別（次世代（妊産婦期、乳幼児期、学齢期）、成人期、高齢期）に目標を設定しており、これらの目標の達成状況について、平成 30 年（2018 年）5 月に実施したアンケート調査の結果や各種統計データ等をもとに達成度を評価しました。

なお、前計画では、平成 25 年度（2013 年度）にアンケート調査（以下「前回調査」という。）を実施しています。

（1）目標値の達成状況の見方

前計画の目標項目・目標値に対して統計データやアンケート調査結果をもとに、下表の評価区分で達成状況を記載しています。

	評　価　区　分
◎	目標値に達した
○	目標値に達していないが第２次計画策定時より改善した
△	第２次計画策定時と変化なし
×	第２次計画策定時より悪化した
―	現状の数値が取れないため達成度を評価していない

（2）健康寿命[75]の延伸の達成状況

目標とした２項目とも第２次計画策定時より改善がみられました。

目標項目		第2次計画策定時		H30	達成
		H25現状値	H30目標値	現状値	状況
健康寿命の延伸 （日常生活動作が自立している期間の延伸）	男性	80.58歳	81.58歳	81.16歳	○
	女性	84.19歳	85.19歳	84.51歳	○

出典　兵庫県　平成29年(2017年)10月27日「平成27年健康寿命（日常生活動作が自立している期間の平均）の算定結果について」。
H25現状値は平成22年、H30目標値は平成27年の数値。

（3）分野別・ライフステージ別目標の達成状況（まとめ）

分野別	ライフステージ別	項目数	◎	○	△	×	-	◎割合	○割合
生活習慣病予防等の健康づくり	次世代	17	5	9	0	3	0	29.4%	52.9%
	成人期・高齢期	27	6	10	0	11	0	22.2%	37.0%
	高齢期	1	0	1	0	0	0	0.0%	100.0%
歯及び口腔の健康づくり	次世代	6	1	3	0	2	0	16.7%	50.0%
	成人期・高齢期	12	4	5	0	3	0	33.3%	41.7%
	高齢期	1	0	0	0	1	0	0.0%	0.0%
こころの健康づくり	次世代	5	2	2	0	0	1	40.0%	40.0%
	成人期・高齢期	6	0	0	0	6	0	0.0%	0.0%
	高齢期	2	0	1	0	1	0	0.0%	50.0%
合計		77	18	31	0	27	1		
割合		100.0%	23.4%	40.3%	0.0%	35.1%	1.3%		

[73] **生活習慣病**　P1 参照。
[74] **ライフステージ**　P5 参照。
[75] **健康寿命**　P1 参照。

目標項目 77 項目のうち、１８項目は目標値に達し、31 項目は前計画策定時より改善がみられ、合わせて 49 項目（62.3%）が改善しました。一方、悪化した項目は 27 項目（35.1%）となっており、特にこころの健康づくりの成人期・高齢期の項目の多くが悪化しています。また、現状値が把握できないため、1項目（1.3%）は評価できませんでした。

（4）分野別・ライフステージ[76]別目標の達成状況

ア 生活習慣病[77]予防等の健康づくり

（ア）次世代

目標項目１７項目のうち、５項目は目標値に達し、８項目は前計画策定時より改善がみられ、合わせて 13 項目（76.5%）が改善しました。悪化した１項目（5.9%）は未成年者の飲酒でした。

	項目番号	目標項目		第2次計画策定時		H30年現状値	達成状況
				H25現状値	H30目標値		
次世代（妊産婦期・乳幼児期・学齢期）	1	妊娠11週以内での妊娠届出率		94.3%	100%	95.8%	○
	2	全出生数中の低出生体重児の割合の減少		9.2%	減少傾向へ	9.0%	◎
	3	妊娠中の喫煙をなくす		2.9%	0%	1.8%	○
	4	妊娠中の飲酒をなくす		2.7%	0%	1.7%	○
	5	乳幼児健診受診率の向上	４か月児健診	97.0%	99%	98.8%	○
	6		10か月児健診	92.7%	95%	97.2%	◎
	7		1歳６か月児健診	96.8%	98%	98.0%	◎
	8		３歳児健診	92.6%	95%	94.3%	○
	9	適正体重を維持している人の割合の増加（４・５歳児）		98.7%	100%	98.8%	○
	10	乳児家庭全戸訪問事業において育児状況が把握できなかった者の減少		1人	0人	0人	◎
	11	適正体重を維持している人の割合の増加	小学生	93.7%	94%	93.8%	○
	12	朝食を食べる人の割合の増加	小学生	88.9%	98%	89.5%	○
	13		中　２	86.7%	95%	82.5%	×
	14		高　２	83.7%	92%	81.4%	×
	15	未成年者の喫煙をなくす	中1男子	4.0%	0%	喫煙率0.8%	○
			高3男子	5.0%			
			中1女子 高3女子	0.0%			
	16	未成年者の飲酒をなくす	中1男子	3.6%	0%	飲酒率5.3%	×
			中1女子	0.0%			
			高3男子 高3女子	※			
	17	健全母性育成事業実施回数の増加		16回	24回	30回	◎

[76] **ライフステージ**　P5 参照。
[77] **生活習慣病**　P1 参照。

出典　第2次計画策定時　H25現状値

平成24年度（2012年度）宝塚市妊娠届出書	項目番号1
平成24年（2012年）兵庫県保健統計年報	項目番号2
平成24年度（2012年度）宝塚市妊婦相談アンケート結果	項目番号3,4
平成24年度（2012年度）宝塚市乳幼児健診結果	項目番号5～8
平成25年度（2013年度）幼児・学童における身体状況調査の宝塚市の結果	項目番号9,11
平成24年度（2012年度）宝塚市乳児家庭全戸訪問事業結果	項目番号10
平成25年度（2013年度）宝塚市子どもの成長と子育て支援に関するアンケート調査結果	項目番号12～14
平成23年度（2011年度）県の中学生・高校生の健康づくり実態調査の阪神北圏域の結果（※は推定誤差が大きいため、統計数値を公表していない）	項目番号15,16
平成24年度（2012年度）宝塚市健全母性育成事業結果	項目番号17

H30現状値

平成29年度（2017年度）宝塚市妊娠届出書	項目番号1
平成28年（2016年）兵庫県保健統計年報	項目番号2
平成29年度（2017年度）宝塚市妊婦相談アンケート結果	項目番号3,4
平成29年度（2017年度）宝塚市乳幼児健診結果	項目番号5～8
平成29年度（2017年度）幼児・学童における身体状況調査の宝塚市の結果	項目番号9,11
平成29年度（2017年度）宝塚市乳児家庭全戸訪問事業結果	項目番号10
平成30年度（2018年度）宝塚市子どもの成長と子育て支援に関するアンケート調査結果	項目番号12～14
平成28年度（2016年度）県の中学生・高校生の健康づくり実態調査の阪神北圏域の結果	項目番号15,16
平成29年度（2017年度）宝塚市健全母性育成事業結果	項目番号17

（イ）成人期・高齢期

目標項目 28 項目のうち、6 項目は目標値に達し、11 項目は前計画策定時より改善がみられ、合わせて17項目（60.7%）が改善しました。11項目（39.3%）は悪化しました。

	項目番号	目標項目		第 2 次計画策定時 H25 現状値	第 2 次計画策定時 H30 目標値	H30 現状値	達成状況
成人期・高齢期	1	がん検診受診率の向上（※1）	胃	5.5%	40%	42.1%	◎
	2		肺	26.8%	40%	50.3%	◎
	3		大腸	25.8%	40%	47.7%	◎
	4		乳	16.9%	50%	32.0%	○
	5		子宮	18.5%	50%	28.1%	○
	6	特定健康診査受診率の向上		36.1%	60%	38.2%	○
	7	特定保健指導実施率の向上		5.3%	60%	6.7%	○
	8	適正体重を維持している人の割合の増加		73.6%	77%	70.9%	×
	9	外食や食品を購入する時に栄養成分表示を参考にする人の割合の増加（※2）	男性	27.9%	34%	24.9%	×
	10		女性	43.2%	52%	39.2%	×
	11	主食・主菜・副菜のそろった食事を心がけている人の割合の増加		85.9%	95%	85.1%	×
	12	毎日朝食を食べる人の割合の増加		87.9%	97%	82.8%	×
	13	野菜を食べる人の割合の増加（1 日小鉢 5 杯）		15.8%	19%	12.9%	×
	14	減塩を意識する人の割合の増加		69.5%	83%	67.4%	×
	15	意識的に運動している人の割合の増加		74.1%	80%	74.5%	○
	16	1 日 5,000 歩より多く歩く人の増加		30.6%	50%	35.2%	○
	17	喫煙者の減少	男性	19.4%	14%	17.8%	○
	18		女性	3.8%	2%	5.9%	×
	19	多量飲酒者の減少（※3）	男性	2.1%	減少	3.2%	×
	20		女性	0.1%	減少	1.5%	×
	21	COPD（慢性閉塞性肺疾患）認知度の向上		17.3%	50%	26.1%	○
	22	メタボリックシンドローム認知度の向上		86.0%	95%	82.4%	×
	23	健康寿命認知度の向上		39.1%	60%	62.1%	◎
	24	ロコモティブシンドローム認知度の向上		10.5%	50%	26.1%	○
	25	かかりつけ医を持っている人の増加		64.6%	71%	64.7%	○
	26	かかりつけ歯科医を持っている人の増加		43.3%	48%	72.7%	◎
	27	かかりつけ薬局（※4）を持っている人の増加		12.0%	18%	42.8%	◎
高齢期	28	介護予防に関する講演会や相談会の参加者数の増加		21,369	25,000	22,702	○

※1 「第 2 次計画策定時　H25 現状値」は職域で行うがん検診を含まない。
「第 2 次計画策定時　H30 目標値」、「H30 現状値」の数値は職域で行うがん検診を含む。
※2 H30 年度(2018 年度)アンケート調査では、「あなたは、食品を購入する際、食品表示を見ていますか。」に変更している。
※3 H25 年度(2013 年度)アンケート調査では、週に 6 日以上かつ 1 日に 3 合以上飲酒する人の割合を集計している。
H30 年度(2018 年度)アンケート調査では、週に 5 日以上かつ 1 日に 3 合以上飲酒する人の割合を集計している。
※4 H30 年度(2018 年度)アンケート調査では、かかりつけ薬剤師・薬局に変更している。

出典　第2次計画策定時　H25現状値

平成24年度(2012年度) 宝塚市がん検診結果	項目番号1～5
平成24年度(2012年度) 宝塚市特定健康診査・特定保健指導法定報告	項目番号6,7
平成25年度(2013年度) アンケート調査結果	項目番号8～27
平成24年度(2012年度) 介護予防普及啓発事業結果	項目番号28

H30現状値

平成30年度(2018年度) アンケート調査結果	項目番号1～5,8～27
平成29年度(2017年度) 宝塚市特定健康診査・特定保健指導法定報告	項目番号6,7
平成29年度(2017年度) 介護予防普及啓発事業結果	項目番号28

イ　歯及び口腔の健康づくり

（ア）次世代

目標項目 6 項目のうち、1 項目は目標値に達し、3 項目は前計画策定時より改善がみられ、合わせて 4 項目（66.7%）が改善しました。悪化した 2 項目は、幼児のむし歯の状況に関する項目でした。

	項目番号	目標項目		第2次計画策定時 H25現状値	第2次計画策定時 H30目標値	H30年 現状値	達成状況
次世代（妊産婦期・乳幼児期・学齢期）	1	妊婦歯科健診の受診率の増加		7.0%	10.0%	7.1%	○
	2	むし歯のない幼児の増加	3歳児	89.7%	90%	88.2%	×
	3	有病者一人当たりのむし歯数の減少	1歳6か月児	2.0本	0本	2.3本	×
	4		3歳児	3.3本	2本	3.1本	○
	5	むし歯の処置完了者の増加	小1～6年	51.6%	65.0%	51.9%	○
	6	むし歯のない児童の増加	12歳	61.9%	70.0%	76.3%	◎

出典　第2次計画策定時　H25現状値

平成24年度（2012年度）宝塚市妊婦歯科健診結果	項目番号 1
平成24年度（2012年度）宝塚市1歳6か月児歯科健診・3歳児歯科健診結果	項目番号2～4
平成24年度（2012年度）保育所、幼稚園、認定こども園及び学校における歯科健診結果	項目番号5,6

H30現状値

平成29年度（2017年度）宝塚市妊婦歯科健診結果	項目番号1
平成29年度（2017年度）宝塚市1歳6か月児歯科健診・3歳児歯科健診結果	項目番号 2 ～ 4
平成29年度（2017年度）保育所、幼稚園、認定こども園及び学校における歯科健診結果	項目番号 5,6

（イ）成人期・高齢期

目標項目 13 項目のうち、4 項目は目標値に達し、5 項目は前計画策定時より改善がみられ、合わせて9項目（69.2%）が改善しました。4項目（30.8%）は悪化しました。

	項目番号	目標項目		第２次計画策定時 H25現状値	第２次計画策定時 H30目標値	H30 現状値	達成状況
成人期・高齢期	1	歯周病検診※受診率の増加		8.1%	10%	10.6%	◎
	2	進行した歯周病を持つ者の減少	40 歳	49.6%	40%	50.0%	×
	3		50 歳	55.4%	45%	61.0%	×
	4		60 歳	60.8%	50%	61.7%	×
	5	歯間部清掃用具の使用者の増加	40 際	47.3%	60%	54.8%	○
	6		50 歳	52.9%	65%	63.8%	○
	7	8020 達成者の割合の増加	40 ～ 44 歳（27 本以上）	64.8%	80%	75.0%	○
	8		45 ～ 54 歳（25 本以上）	69.2%	75%	90.3%	◎
	9		55 ～ 64 歳（24 本以上）	56.4%	65%	77.5%	◎
	10		65 ～ 74 歳（22 本以上）	54.4%	60%	67.9%	◎
	11		75 ～ 84 歳（20 本以上）	46.7%	50%	48.7%	○
	12	定期的歯面清掃を受ける人の増加		50.3%	60%	56.3%	○
高齢期	13	口腔機能向上（硬いものが食べにくい人の割合の減少 /70 歳以上）		16.1%	10%	28.0%	×

※第２次計画策定時の事業名は宝塚市歯周疾患検診

出典　第2次計画策定時　H25現状値
　　平成24年度（2012年度） 宝塚市歯周疾患検診結果　　項目番号1～6
　　平成25年度（2013年度） アンケート調査結果　　項目番号7～13

H30年　現状値
　　平成29年度（2017年度） 宝塚市歯周病検診結果　　項目番号1～6
　　平成30年度（2018年度） アンケート調査結果　　項目番号7～13

ウ　こころの健康づくり

（ア）次世代

目標項目５項目のうち、２項目は目標値に達し、２項目は前計画策定時より改善がみられ、合わせて4項目（80.0%）が改善しました。また1項目は現状値を把握できないため評価ができませんでした。

	項目番号	目標項目	第２次計画策定時 H25現状値	第２次計画策定時 H30目標値	H30年 現状値	達成状況
次世代（妊産婦期・乳幼児期・学齢期）	1	身近に子育てを相談できる人がいる割合の増加	98.5%	100%	99.2%	○
	2	身近に子育てを手伝ってくれる人（配偶者）がいる割合の増加	81.4%	90%	84.9%	○
	3	乳児家庭全戸訪問事業において育児状況が把握できなかった者の減少（再掲）	1 人	0 人	0 人	◎
	4	眠れないことが頻繁にある人の割合の減少（中学１年生、中学３年生、高校１年生、高校３年生）	7.1%	5%	—	—
	5	悩みがあった時に誰にも相談しない人の割合の減少	22.9%	15%	9.2%	◎

出典 第2次計画策定時　H25現状値

平成25年（2013年）4～6月宝塚市乳幼児健診結果	項目番号1,2
平成24年度（2012年度）宝塚市乳児家庭全戸訪問事業結果	項目番号3
平成23年度（2011年度）兵庫県健康づくり実態調査の阪神北圏域結果	項目番号4,5

H30現状値

平成29年（2017年）11月～平成30年（2018年）1月宝塚市乳幼児健診結果	項目番号1,2
平成29年度（2017年度）宝塚市乳児家庭全戸訪問事業結果	項目番号3
平成28年度（2016年度）県の中学生・高校生の健康づくりの実態調査の阪神北圏域結果	項目番号5

（イ）成人期・高齢期

目標項目８項目のうち、目標値に達した項目は無く、1項目（12.5%）は前計画策定時より改善しました。7項目（87.5%）は悪化しました。

	項目番号	目標項目		第2次計画策定時 H25現状値	第2次計画策定時 H30目標値	H30 現状値	達成状況
成人期・高齢期	1	睡眠で休養が十分に取れていない人の割合の減少		18.3%	15%	19.4%	×
	2	多量飲酒者の減少（再掲）	男性	2.1%	減少	3.2%	×
	3		女性	0.1%	減少	1.5%	×
	4	ストレスを感じる人の割合の減少		68.5%	50%	72.7%	×
	5	ストレス解消方法を持つ人の割合の増加		79.2%	85%	76.5%	×
	6	自殺者の減少		38人	30人以下	41人	×
高齢期	7	介護予防に関する講演会や相談会の参加者数の増加（再掲）		21,369	25,000	22,702	○
	8	悩みを相談できない人の減少（65歳以上）		8.9%	8%	10.8%	×

出典　H25年　第2次計画策定時の数値

平成25年度（2013年度）アンケート調査結果	項目番号1～5,8
平成24年（2012年）兵庫県保健統計年報	項目番号6
平成24年度（2012年度）介護予防普及啓発事業結果	項目番号7

H30年　現状値

平成30年度（2018年度）アンケート調査結果	項目番号1～5,8
平成29年（2017年）兵庫県保健統計年報	項目番号6
平成29年度（2017年度）介護予防普及啓発事業結果	項目番号7